

厚生労働科学研究費補助金（免疫・アレルギー疾患政策研究事業）  
分担研究報告書

長引く咳嗽の初期対応～難治例の治療

研究代表者 谷口正実 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 客員研究部長  
研究分担者 福富友馬 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター  
診断・治療薬開発研究室長  
関谷潔史 国立病院機構相模原病院 アレルギー・呼吸器科 部長  
上出庸介 国立病院機構相模原病院 呼吸器内科 医長  
渡井健太郎 国立病院機構相模原病院 アレルギー科 医長

研究要旨：

背景：

- 1) 咳嗽は最もありふれた外来患者における主訴でありながら、エビデンスは非常に乏しい。
- 2) ガイドラインをもちいた診療を行っても、正確な診断や治療に難渋する。
- 3) 相模原病院を主体とした NHO ネットワーク研究（関谷潔史班）において、長びく咳の診療に関する多施設（レジストリ+治療介入）研究が進行中であり、日本人 200 余名の長びく咳の原因疾患（レジストリ研究）や治療手順（介入研究の結果）がまもなく明らかにされる予定である。

目的：

- 1) 日本人成人の長びく咳の原因疾患頻度を明らかにする。
- 2) 実際の臨床現場で有用な長びく咳の診療の手引きを作成する。

研究方法：

- 1) 2019 年度：NHO ネットワーク研究（関谷班）の実行～完遂。
- 2) 2020 年度：1)の研究の完遂、結果解析、特に原因別頻度の公表（レジストリ研究）。
- 3) 診療の手引き完成へ、特に介入研究結果から最適な長びく咳の診療の手引きを導く予定。

研究結果：

NHO ネットワーク研究の前半が終了し、後半部分の介入研究に関して現在遂行中である。

考察：

本研究の結果が判明し、長引く咳の診療手引きが完成すれば、多くの患者救済につながる。またレジストリ研究も兼ねており、日本人成人における長引く咳の内訳が前向き研究により明らかにされる予定である。

結論：

日本における長引く咳の診療に大いに貢献できる予定である。

## A. 研究目的

背景：

- 1) 咳嗽は最もありふれた外来患者における主訴である。
- 2) しかしながら、長引く咳に関するエビデンスは非常に乏しい。
- 3) 呼吸器アレルギー領域において、診断と対応が非常にむずかしく、最新のガイドラインをもちいた診療を行っても、正確な診断や治療に難渋する症例は少なくない。
- 4) 相模原病院を主体とした NHO ネットワーク研究（関谷潔史班）において、長びく咳の診療に関する多施設（レジストリ+治療介入）研究が進行中であり、日本人 200 余名の長びく咳の原因疾患（レジストリ研究）や治療手順（介入研究の結果）がまもなく明らかにされる予定である。

目的

NHO 研究で不足している研究計画(介入研究)を引き継ぎ完遂する。この NHO 研究での結果を踏まえて、

- 1) 日本人成人の長びく咳の原因疾患頻度を明らかにする。
- 2) GL では、十分に対応できない、実際の臨床現場で有用な長びく咳の診療の手引きを作成する。

## B. 研究方法

- 1) 2019 年度：NHO ネットワーク研究（関谷班）の実行～完遂（2019 年度までの原資は NHO ネットワーク研究）
- 2) 2020 年度：
  - ①1) の研究の完遂
  - ②結果解析、特に原因別頻度の公表（レジストリ研究）

③診療の手引き完成へ、特に介入研究結果から最適な長びく咳の診療の手引きを導く予定（なおこれらの研究内容に関しては、NHO 名古屋臨床研究支援センターの支援をいただき、さらに国立病院機構相模原病院の倫理委員会の承認を得ている。）

（倫理面への配慮）

該当する研究に関しては、国立病院機構相模原病院倫理委員会の承認のもとで研究を行った。

## C. 研究結果

NHO ネットワーク研究の前半が終了し、後半部分の介入研究に関して現在遂行中である。

## D. 考察

本研究の結果が判明し、長引く咳の診療手引きが完成すれば、多くの患者救済につながる。またレジストリ研究も兼ねており、日本人成人における長引く咳の内訳が前向き研究により明らかにされる。

## E. 結論

日本における長引く咳の診療に大いに貢献できる予定である。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

1. 論文発表  
なし（研究終了後に公表予定）

2. 学会発表

関谷 潔史, 福富 友馬, 渡井 健太郎, 藤田 教寛, 岩田 真紀, 永山 貴紗子, 中村 祐人, 濱

田 祐斗, 劉 楷, 富田 康裕, 林 浩昭, 上出  
庸介, 森 晶夫, 谷口 正実 遷延性・慢性咳嗽  
における症状改善判定の指標に関する検討  
第 68 回日本アレルギー学会学術大会, 2019 年  
6 月 14-16 日, 東京,

#### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

特になし